

# EAST CLOUD

東中・校内研修

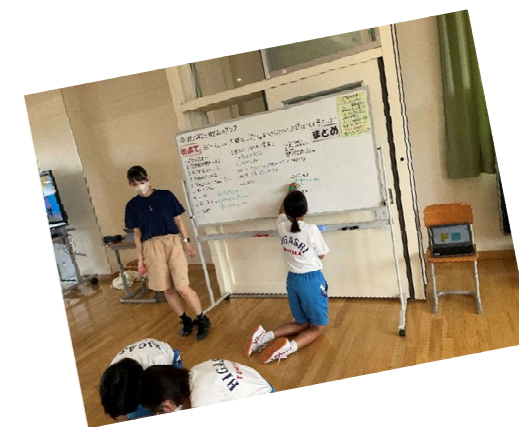
令和4年度 富岡市立東中学校  
 令和4年9月14日(水)  
 発行者:萩野裕介  
 校内研修だより No.



## 【研修テーマ】

### 『思考力・判断力・表現力を身に付けた生徒の育成』

～1人1台端末の効果的な活用を通して～



## ～一人一授業②を終えて…!!～

依田先生、清水先生、高野先生、ありがとうございました！**授業者の学び**はもちろんですが、**参観者の学び**も多かったのではないのでしょうか？「他教科だから関係ない」ではなく、「**自らの力に変えよう**」と熱心な意見交流が検討会でも行われていました。一人一授業を「**作業**」とするのではなく、職員全体の「**トレーニング**」の場として、これからも活用していきましょう！！

先生方に提出していただいた「まとめ」から、特に大切だと思ったことを「**#研修のバトン**」としてまとめました。特に、今回「**評価基準**」については授業者全員が挙げていました。

### 【#研修のバトン】

#### ・「評価基準」の明確化

→何ができたらAなのか？

具体的な指針を教師がもって、授業を行う

#### ・個人差への対応

#### ・「教える」と「考えさせる」の線引き

#### ・「比較」すると思考が深まる



## ～9/12の指導案～

### ②「指導案の見方」「指導案」データ

以下のQRコードを読み込み、「閲覧、ダウンロード」をお願い致します。

もしくは、以下のリンクから接続をお願い致します。

※資料を保存しているGoogleドライブに接続されます。

[https://drive.google.com/drive/folders/15Z0GJnx9wH-8Epy3W74WkT\\_u271ff2uq?usp=sharing](https://drive.google.com/drive/folders/15Z0GJnx9wH-8Epy3W74WkT_u271ff2uq?usp=sharing)



### 依田【体育】

#### ▽家庭学習に活用

ジャムボードに予め自分の取り入れたい動きや場面を準備しておくことで共有の場面から授業がスタートできるので、時短として良い方法であると思う。

過去の映像があることで、言葉だけよりもイメージしやすい

例示が「先輩の動画」ということで、親しみをもって動きの確認ができるので資料提示として効果的だと思う。

#### ▽生徒主体の活動

生徒がメインになり、先生はあくまでファシリテーターという感覚が強い授業だった

リーダーが上手に意見をまとめた

話し合った動きを録画し確認しながらいける

抑揚をつけた指示(声)の出し方で聞き取りやすい

アップからリズムを意識できるのがいい

機械の不具合にも瞬時に対応

教師の机間での指導での声掛け「これどういう意図?意味?」など深める質問。

#### ▽グループ格差への対応

練習時間にすぐ踊れるグループとそうでないグループの差をどうするの?

グループの差?経験者がいないので答えが分からない。何かよいか分からない生徒が多い。「まずやってみて、後で修正すればいいよ」のような声かけを増やす。

今日の授業の中で、教師が各組何をやるのかを把握し、練習でのアドバイスや質問に活かせると思ったので良かったです。

Jamboardで共有して、何をしたいかは分かっていたのでそれを続ける。

#### ▽評価方法

班活動での評価の仕方→今回なら何がAで何がBで、それをどうに見取るかが難しい。

個人のカードに名前を書かせて、把握。Aは中間発表を前回やって、修正文を書かせていたので、その改善点があるから...があるから。と書かせた。

before・afterを見られたり、動きを表している実際の動きを録画して見られるようにしておく→評価につなげる

#### ▽まとめ

最後の各班の発表の文字が見えにくかったので他の方法があるといいと思います。

大型テレビで映す方法  
見える必要はなかった。

運動量を取った。  
各班でワールドカフェ形式で伝える方法

# 【体育・2年】 清水拓巳 校庭 「ハードル走をしよう」

**清水【体育】 生徒の発言**

生徒から「高く飛び過ぎか〜」のように自分のフォームについて見直すつづきがよかった

理想のフォーム ⇄ タブレットで自分の姿勢の確認... 岩丸くん『分かった!!』

**若さは清水先生の武器**

上手な人を見本とみせることで、見本の生徒は自信が付き、他の生徒はうまい人のハードルを見れる

**カメラの活用について**

カメラの時間の間隔をもう少し開けてもよかったのではないかな

3つ目のタイムシフトカメラを見れない生徒が多かった。

カメラをみただけで、改善しようという生徒が少なかった?

タブレットを見ている生徒から、「あまり良く見えない」「誰か誰かかわからない」という声が聞こえてきていた。

自分の動画と他人の動画を比較できるように手立てがあったらよかったかも?

屋根を付けたり、画面が見えやすい工夫

ヘアで撮影することで自分のフォームについての理解を深めることができる。タイムシフトだと運動量を確認することができる。

**タブレット三台活用**

時間差のある3台のタブレットが生徒の興味を引くしわかりやすい。3回見るという点も良かった

動画をさつえいする時に、一人一台端末を3台置くことで、斜め後ろ・まよこ・斜め前と、違った角度から自分の動きを確認できていた。

勝敗のつきかたの話から、なぜはやく走る必要があるか生徒が理解することができていた

振り返りにカメラを見てわかったことの反省を書いている生徒がいた

**運動量が確保**

一人一人飛ぶと練習量の確保が難しいのではないかな

生徒の学習進度に合わせて運動量を増やしている

もっと生徒を活躍させたい

授業準備をさせたり、体操を陸上部に考えさせたり、活躍の場を増やす

**タイムシフトカメラを活用し、生徒が自分の動きを確認することができた。**

スポンジのハードルが苦手な生徒にはありがたい!

踏切りのポイントを示した

写真の姿勢や友達との走る姿から生徒が工夫してハードルに取り組んでいた。

プリントがない生徒が多い

ファイルの管理

飲み物を飲んだあとなどメリハリがあるといいのではないかな

道具の整理整頓 (特に保健室前)

先生の表情がよみとれない先生の思いが伝わりにくい

# ～授業のまとめ～

**「今後に生かそう」と思ったこと**

事前の確認をもっと徹底して行う。時間配分を意識し、運動量の確保を目指す。評価規準と評価方法を明確にして、確実に見とれるようにする。グループは個人の差に随時対応できるように、具体的な対応方法を事前にいくつか考え、授業にのぞむ。

- 生徒を活躍させる場面を増やす 例:生徒が体操を考える
- 思判表の評価の付け方、具体性をもって考える
- 生徒に対して、教えるのか、考えさせるのかの線引きを考える

「めあて」と「まとめ」の繋がりや「めあて」を生徒から引き出す工夫が今後の課題である。例えば、「まとめ」は箇条書きで大事なポイントを書かせ、「振り返り」として相手へのアドバイスを書かせることで、学習したことを活用して思考する場面を設定することができる。比較する活動を取り入れることで、より思考を深めることができると感じた。評価規準を明確にもった上で授業を行うことで、活動内容や問い返しなどが変わってくると感じた。一人一台端末があるからこそできる有効な学習方法を今後も模索していきたい。

単元にあった準備体操、アップや個人端末の活用法など参考にできることが多くあった

タブレットの複数同時撮影(角度を変えて)

一人一台にこだわらず、様々な形態の使い方ができると学びました。同じ使い方だとマンネリ化してしまうので、バリエーションを増やしていきたいです。

検討会の話にあった生徒の活躍の場を増やすということについて、理科の実験の準備など自分がやってしまうことが多いので生徒に任せる部分を増やすなどしていきたいと思った。

また、ファイルの管理など1年生は忘れものが多いので工夫したいと思った。

- 「生徒が活躍する授業」を目指して、準備や片付けなど、なるべく生徒にやらせる授業構成を考えること。
- ICTの使い方について、「何を大事にするか」を基準に、あらゆる手段をまずはやってみて、最適な方法を探っていくこと。

クロームブックの活用、生徒主体の授業を今後も展開していきたいです。

中身を詰め込みすぎず、今日の授業で身につけたい力を意識した授業を心がける。一人ひとりが内容の理解をしっかりとすることで、まとめ・振り返りを自分の言葉で書くことができています。一人との話で終わらず、全体に問い返ししながら進めていく。

- 振り返りの手立て
- 生徒にどのように思考させるか問いかねなど
- めあてとまとめのつながり

教材の工夫

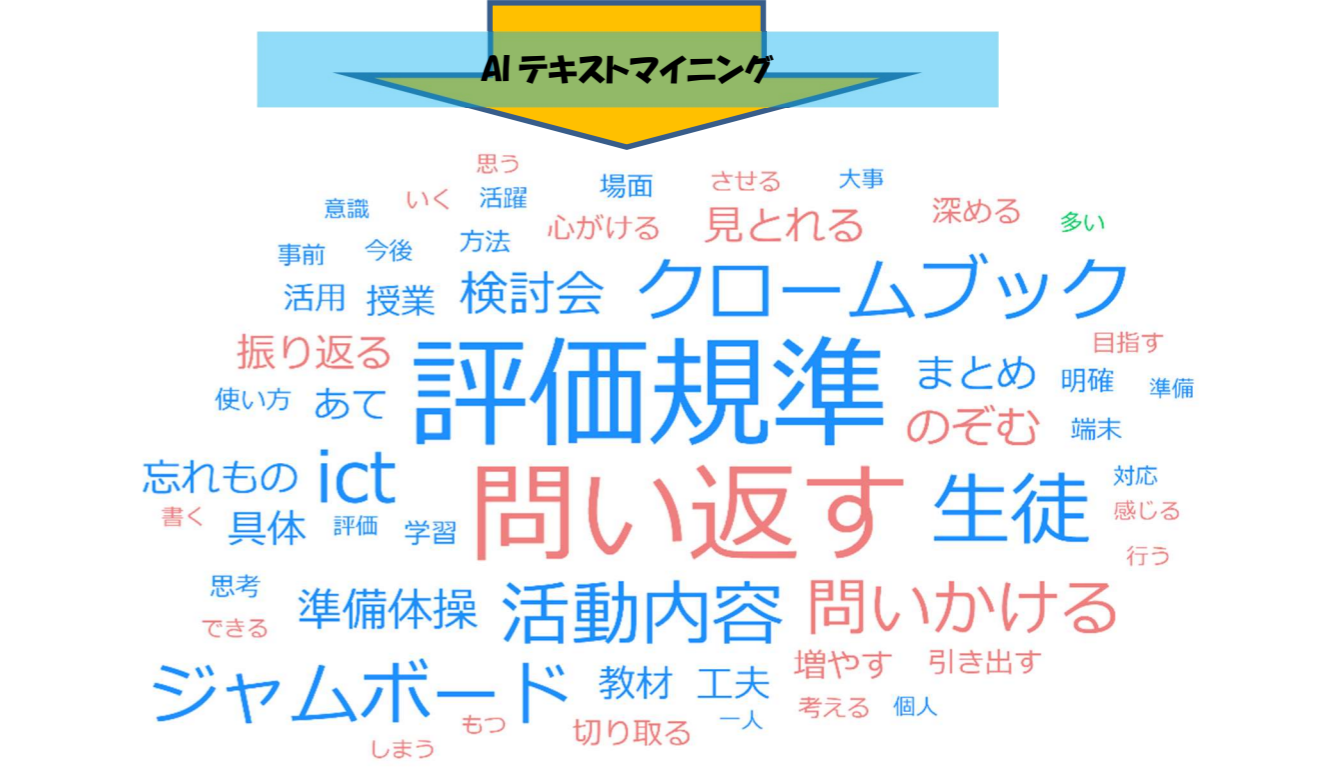
ジャムボードでの共有の仕方。生徒が発表したことへの問いかね。教材の選定について。

実際の生活で起こり得ることやその具体的な場面を切り取ったような授業の実践

生徒が自宅で行う課題の有効的な活用を行うことです。それによって、授業がワンステップ先に進むだけでなく、生徒が主体的に学ぶ姿勢を見取ることにもつながると考えました。また、生徒が主体的に授業に取り組むために、教員はあくまで指示のみを出すことが重要であると考えました。

調べてきたり、自分なりの考えを作ってきたりすることは、個人差があるため自宅学習として宿題にし、授業ではその個人の考えを共有する時間としたいと思った。

- 生徒主体の話し合い活動を取り入れ、生徒が話したり、書いたりする時間の割合を50%以上にすること。
- 中間評価を1時間の中に位置づけて、改善前と改善後をすぐに比較できるようにする。



# 【家庭・2年】 高野真希子 2年1組教室 「ネットショッピングの注意点」

**高野【家庭】 題材(教材)の良さ**

思考・判断・表現する活動かできる教材だった

「旅行に向けて」という必要感があり、生徒も身近に考えられる題材でよかった。

具体的なデータ(ネットショッピングのトラブルの割合)を示すことで、危険意識を持たせていた。

資料が別のページにもいけて、自ら思考、判断できる教材だった。

生徒から「めあて」を引き出すことでより主体的に思考できる

「めあて」をシヤクんにアドバイスをする方向に変更 「まとめ」をキーワードにし、自分に還元するのを振り返りとする

「めあて」と「まとめ」の繋がり

単純なポイントも取り上げたかった。「copy-heaven」「NIKI」「番地がない」など

**ジャムボードの効果的活用**

ジャムボードの班交流→視点の多様化に繋がっていた

ジャムボードの活用により、意見をまとめ、3つ何があるか考える争かできていた。

ジャムボードを使って意見を共有することで、道徳意識にすることが苦手な生徒でも話し合いに参加することができていた。

一人では解決できないからこそ、対話により考えを深める事ができていた。

公式サイトとの比較などがあってもよかった。正解例?のようなもの。

同じ商品で、2つのサイトを見比べてみることで、より実生活につながる。

どこまで考えられるとAだったのか。買うときの注意点が出せればOK?

今回は自分の気づいたことについて具体的に記述できていたA。授業者がAの解答例を示すと基準が明確になる

**1人1台端末の効果的活用**

自分で1台タブレット端末を使う価値があった。大画面1つでなく自分で操作することが大切であった。

生徒が主体的に考えていた

1人1台端末だからこそできる授業だった(自分でサイトの問題点を見つけることができる)

まとめ・振り返りの時間をしっかり確保し、自分と対話する時間が持てていた。

生徒1人の記述・発言に対して全体に問い返していた

**まとめの視点**

まとめをアドバイスにしたことで、根拠を示してまとめた(表現力)

まとめを「アドバイスをしよう」としたため、キーワードを用いながら自分の高感とめられていた。

シヤクんに、アドバイスをすることで自然とまとめに直結する感じた。